

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
第60回（令和3年度第2回）理事会議事録（案）

日 時：令和3年6月25日（金） 15：00～16：30

開 催：web 会議

ホスト：学会事務局（東京都文京区大塚 5-3-13 学会支援機構内）

出席者：大賀 正一（理事長）、米田 光宏、滝田 順子（以上副理事長）

井上 健、小川 千登世、奥山 宏臣、康 勝好、塩飽 仁、高橋 義行、多賀 崇、
滝 智彦、菱木 知郎、淵本 康史、松本 公一、盛武 浩（以上理事）、

檜山 英三（監事）井上 雅美（第63回学術集会会長）、足立 壮一（JCCG 理事長）

欠席者：天野 功二、西川 亮、藤 浩（以上理事）、菊田 敦（第62回学術集会会長）、

越永 従道（第64回学術集会会長）

冒頭に、本日の理事出席者数は17中13名であり、定款施行細則第8条第3項に定める成立定足数を充たしているため、本理事会は成立することを確認した。

続いて、大賀正一理事長が議長となり、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 前回理事会議事録（案）の確認

議長より、前回議事録（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 入会申請者の件

松本庶務・財務担当理事より、現在の会員数の報告、入会申請者36名が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

2. 2年以上会費滞納者の件

松本庶務・財務担当理事より、2年間以上の年会費滞納による会員資格喪失予定者が示された。昨年度と同様に、対象者に年会費支払いの督促を行い、今年7月末までに支払いが無かった場合、会員資格喪失として処理することで議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

3. 小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン及び小児がん診療ガイドライン2016年版改訂について

多賀診療ガイドライン委員会担当理事より、資料を基に説明がなされた。

小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン及び小児がん診療ガイドライン2016年版の発行から5年が経過しており、当初の予定では昨年度に改訂を行う予定だったが、コロナ禍の状況もあり今年度から着手することとなった。

ガイドラインの形式としては、2016年版と同様にCQ方式を採用し、Minds診療ガイドライン作成マニュアル2020年版に準拠して作成することとなった。

システマティックレビューについては、成育医療研究センターへの外注を検討しているが、概

算で CQ 一つあたり 10～15 万円程度必要であり、現行と同程度の CQ の場合、かなりの経費が必要となるとの報告があり、改定作業に伴う予算について議論がなされた。

審議の結果、今後、CQ が全て必要かどうかを含め、具体的金額について見積書を取得し、検討を進めることとなった。

議場からは次のような意見が述べられた。

・他学会事例では、ガイドラインの改訂作業に際して、年間予算を計上して予算内でやりくりをすること、あるいは厚生労働科学研究費補助金等、他機関から援助いただくことも行われている。

4. 第 63 回学術集会 上級プログラムの小児(AYA)がん患者・経験者・ご家族・支援者視聴の件 井上第 63 回学術集会会長より資料をもとに説明された。

上級プログラムの一般公開について、全プログラムを一般公開するのではなく、井上会長をはじめとした運営側が、一般公開の有無を決定していくことについて、議場にその承認が求められ、全員異議無く承認された。

議場からは次のような意見が述べられた。

- ・開催日のうち、1 日の午前中に一般公開プログラムを設定するのが良いのではないか。
- ・家族・患者向け特別企画を設けることも検討して良いのではないか。

5. 日本小児科学会ホームページへの CLIC 情報掲載の件

盛武教育・研修委員会担当理事より、資料をもとに説明がなされた。

日本小児科学会ホームページのお知らせコーナー「他団体から」というタブの中に追加する (<https://www.jpeds.or.jp/>) ことについて、議場にその承認が求められ、全員異議無く承認された。

なお、今年度 CLIC 研修会申し込みについては、

- ① 専門医更新予定者に 1 週間前から先行して募集開始
- ② 1 週間後に広く募集開始

の予定で準備中との報告があった。

6. 令和 2 年度決算書の件

松本庶務・財務委員会担当理事より、令和 2 年度決算書類が示された。

最終的な金額確定は後日となり、厚労省委託事業で数万円程度の変化の可能性があるが、収支額が予算額と乖離(約 2,600 万円の黒字)となった主な理由は、学術集会会計の黒字、コロナ禍による理事会・委員会等の Web 開催による旅費交通費支出の大幅減が挙げられる。

決算書類について議場にその承認が求められ、全員異議無く承認された。

議場からは次のような意見が述べられた。

・予算、決算報告書は従前の NPO 時代に作成されたものを受け継いで使用し続けている為、予算科目が分かりづらく改変が必要ではないか。

本件については、事務局と確認し、本年度分より修正を行うこととなった。

7. 令和 2 年度監査報告

檜山監事より、6月23日に学会事務局（学会支援機構内）にて監事監査が行われ、決算書類については適正に処理されていたことが報告された。

8. 次回理事会 9月以降理事会日程案について

大賀理事長より、次回9月以降の理事会日程について提案がなされ、以下様に決定した。

- ・9月17日(金)15:00～17:00 Web開催
- ・11月5日(金)15:00～17:00 Web開催

III. 報告事項

1. 日本専門医機構が関与するサブスペシャルティ領域専門医について、5/24 専門医制度委員会議事録

米田専門医制度委員会担当理事より、資料をもとに報告があった。

本学会専門医制度を、日本専門医機構に認定申請を行ったが、今年度の日本専門医機構からの認定は行われなかったことになった。

日本専門医機構の総会資料によれば、継続審議とはなっているものの、今後認めていただくのは難しい状況になっている。同機構理事長によれば、今後、機構認定と学会認定を分けて運用する構想とのことであった。

あわせて5/24 専門医制度委員会議事録より、以下の報告と審議依頼があった。

- ・みなし指導医5年経過後の扱いについて

みなし指導医の5年の期限を迎える施設が2施設あり、みなし指導医が5年経過により失効した場合に施設認定は取り消される、というのが当初の基本的な解釈であったが、今年度はコロナ禍対応として暫定指導医や施設要件緩和の終了を1年間延長した経緯もあり、みなし指導医の1年延長が妥当との委員会判断に達した。該当の2施設のみなし指導医には、特例でのみなし指導医の延長することについて、議場にその承認が求められ、全員異議無く承認された。

- ・学術集会時のゲノム教育セッションの単位数は、2単位を認定した。
- ・今年度専門医試験の日程が報告された。

9月11・12日(土・日) 於：TKP品川カンファレンスセンター

- ・指導医新規申請（14名）全員が承認された。
- ・認定外科医の新規申請（17名）

1名が不適格（学会参加の不足）。16名が承認された

- ・研究会の新規申請（1件） 北海道小児血液研究会と北海道小児がん研究会が合併し再申請。参加者名簿を確実に残すこと、演題数が5題以上という基準を満たすように注意喚起する。研修単位 は3点（現状維持）。
- ・研修施設の新規申請（1件）承認。

2. 長期フォローアップ・移行期医療委員会

松本長期フォローアップ・移行期医療委員会副委員長より資料をもとに報告された。

今年度の研修日程について、第1回は、8月28日(土)9:00～16:00（予定）Web（Zoom ミーティング、ホストは北海道大学病院）の予定である。

本会ホームページに掲載することを目的とした「移行医療について」の支援ガイドを作成中であり、移行期医療のポータルページとなるよう、学会ホームページ掲載に向け準備中である。実際の掲載に関しては、社会・広報委員会と連携して進める。

また、新たに7月より長期フォローアップ・移行期医療委員会の業務を担当する、学会雇用職員が入職したことが報告された。

3. 遺伝性腫瘍委員会 臓器横断的ゲノム診療ガイドライン改訂に関して

大賀遺伝性腫瘍委員会委員長より、資料をもとに説明された。

「臓器横断的ゲノム診療ガイドライン」の第3版の改訂にあたり、3学会(日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会及び本学会)で改訂作業を行うこととなった。遺伝性腫瘍委員会を中心に固形腫瘍やがんゲノムに造詣の深い7名の学会員を選出し内諾を頂いて、作業を開始することが報告された。第3版の出版に関する費用負担は日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会と本学会で2:2:1の割合で負担することで合意のもと進めている。

以下、大賀理事長より報告された。

4. 「日本医学会創立120周年記念誌」の件

日本医学会より、120周年記念事業『日本医学会創立120周年記念誌』(2022年3月24日刊行予定)内の、5部日本医学会138分科会の歴史 執筆依頼が有り、理事長・副理事長を中心に執筆予定である。

5. 日本医学会分科会活動報告の件

日本医学会ではこれまで加盟後の活動状況について各加盟分科会に報告を求めた事は無かったが、今年度より数年毎に活動報告を提出する事となった。大賀理事長にて執筆、提出済。

6. 日本小児外科学会より

日本小児外科学会の理事長に、奥山 宏臣先生(本学会理事)が就任されたとの報告があった。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、出席した理事長及び監事がこれに記名押印又は署名する。

令和3年6月25日

日本小児血液・がん学会 第60回理事会

理事長 大賀正一 ⑩

監事 檜山英三 ⑩